

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第109回）に関する面談（スラリー脱水設備）
2. 日時：令和5年9月29日（金）11時00分～12時00分
3. 場所：原子力規制庁6階会議室
4. 出席者：
原子力規制庁
原子力規制部
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
澁谷企画調査官、正岡企画調査官、大辻管理官補佐、佐藤室長補佐
森審査班長、石井安全審査官、元嶋専門職

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
プロジェクトマネジメント室 2名（テレビ会議システムによる出席）
福島第一原子力発電所 4名（テレビ会議システムによる出席）
5. 要旨：
 - 原子力規制庁は、東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、ALPS スラリー脱水設備に係る検討状況について、令和5年9月20日に実施した面談に引き続き、資料に基づき説明を受けた。
 - 原子力規制庁は、説明の内容について確認するとともに、以下のとおりコメントを行った。
 - 特に設計に大きな影響のある耐震クラスとその考え方、閉じ込めの考え方、非常用電源に対する考え方について、審査開始後に手戻りが生じることの無いよう、説明できるような準備を早急に進めること。
 - 使用済セシウム吸着塔一時保管施設（第三施設）の増設について、既存のボックスカルバートの増設はあくまで一時的な措置であるということを踏まえるとともに、継続的に使用するボックスカルバートに対しては必要な耐震性を確保していくこと。
 - 今後の固化処理を見据えた上で、スラリーの脱水処理が必要なプロセスであることを、資料中に明記すること。
 - 東京電力から、原子力規制庁からのコメントについて検討の上、対応していく旨回答があった。
6. 資料：
ALPS スラリー安定化処理設備設置の検討状況について